

2022年7月28日

各 位

広島市安佐南区祇園3丁目28番14号  
株式会社アスカネット  
代表取締役社長 松尾 雄司

## 第27回定時株主総会および懇談会の質疑応答要旨について

2022年7月28日に開催いたしました第27回定時株主総会および懇談会の質疑応答要旨をお知らせいたします。株主総会及びその後の懇談会をあわせまして、以下のとおり、4名の株主様から7件のご質問・ご提言をいただき、役員一同が回答いたしました。

(質問要旨) 大株主の状況を見ると、筆頭株主の持ち株数が相当数減少していると思うのですが、会社としてはどのような理由があると考えておりますでしょうか。

(回答要旨) 筆頭株主である創業者本人のご意向による売却とだけ把握しておりまして、それ以上の理由については当社はコメントする立場にないもので、ご理解をいただきたいと思います。

(質問要旨) ①フューネラル事業における遺影写真加工のシェアはどれぐらいでしょうか。②また、空中ディスプレイ事業の内容について説明してください。

(回答要旨) ①遺影写真の加工枚数は今期は前期に比べて約46,000件増加し、年間で約403,000件となっております。日本国内の年間死亡者数から換算すると約27%程度となります。②空中ディスプレイ事業についてですが、この事業は2011年から外部から空中結像技術を導入して開始しており、空中結像を可能にするプレートの開発を主としており、このASKA3Dプレートを精度よく作り、空中に浮かべる技術を世の中に広めていきたいと考えております。この空中ディスプレイの用途は、サイン用途と非接触操作の用途が考えられており、色々な企業様と一緒に開発をしております。時間はかかっておりますが、我々も世界唯一の技術として広めていきたいと思っております。ご支援のほどよろしくお願いいたします。

(質問要旨) 空中ディスプレイ事業についてですが、感染対策をメインにアピールされていると感じますが、エンターテインメント性にも魅力があり、家庭用機器に落とし込んだら面白いのではないと思いますが、そのような分野への営業は進んでいるのでしょうか。

(回答要旨) 今は特にこういうコロナ禍の状況ですので、非接触操作というニーズが強いのですが、一方で、サイネージ用途でのお話もたくさんあります。その中で、ご指摘のようなエンターテインメント用途へも積極的に営業を進めております。活用自体は場所を選ばないので、家庭用にも広がる可能性があると考えております。

(質問要旨) 空中ディスプレイ事業について、他社との資本提携などによってスピードを早めるようなお話しはないのでしょうか。

(回答要旨) ご指摘のように空中ディスプレイ事業においては、多くの企業様と連携してプレートの製造開発を進めております。また、ASKA3D プレートの使い方についても、国内外の多くの企業様と研究をしております。資本提携している協力先は現在のところございません。

(質問要旨) ①フューネラル事業の海外への展開、特に高齢化が進んでいる中国への展開についてどのようにお考えでしょうか。②また、創業者の株主総会への参加を是非来年はお願いしたいです。

(回答要旨) ①中国への展開は、以前検討したことがございますが、中国には日本のような遺影写真の文化がなく、葬儀のやり方も日本とは全く違うので、なかなか中国への展開は難しいと考えております。ただ、我々が持っている写真加工技術を、中国などの海外で使えないかは常に研究をしております。②創業者の株主総会の参加についてはご本人のご都合があるかとは思いますが、お会いする機会があるので、参加のお願いはしてみようと思います。

以 上